

恒久平和を願って…

広島平和記念式典に参加しました



小川町では、平和推進事業の一環として、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次の世代へ継承することを目的に、毎年、中学生が広島平和記念式典に参加しています。戦後70年目となった今年も、町内各中学校代表の8人が広島平和記念式典に臨み、現地でも多くを学びました。

8月5日に広島市を訪れ、原爆ドームを見学し、被爆の惨状を学び、原爆の子の像には小川町の中学生が心を込めて折った千羽鶴を、原爆死没者慰霊碑には生花を捧げ、死没された方の冥福を祈りました。また、平和記念資料館では被爆者の遺品や写真を見学し、核兵器の恐ろしさと、今も続く被爆者の苦しみを知り、平和の尊さを実感しました。

翌6日は「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列し、原爆が投下された時刻の午前8時15分に黙とうを捧げました。続いて行われた松井一實広島市長による平和宣言、こども代表による平和への誓いを胸に、恒久平和への思いを強くした2日間でした。



東中 滝本 蓮

平和について深く考える機会がありませんでしたが、この体験を生かして平和の有り難さを多くの人に伝えたいです。世界から核兵器が無くなる日が一日も早く来ることを僕は望みます。



櫻台中 金子 陽菜

「歴史の証人」原爆ドームを目の当たりにし、想像以上の恐怖を感じました。二日間の研修の中で学び、直接自分の目で見て、肌で感じてきた事を一人でも多くの人に伝えていきたいと思います。



櫻台中 坂内帆空斗

この二日間で、僕は戦争の悲惨さと平和について学びました。これからは、平和について考え、周りの人達に平和の大切さや、命の尊さを一人でも多く伝えていきたいです。



西中 増子 雪菜

二日間原爆について学んできて原爆とは、一瞬で多くの人を苦しめる悲惨な事だと実際に感じる事ができました。自分の身で学んだ事を、もう一度考えたくさん人に伝えていきたいです。



西中 横田 海人

僕は、この二日間で戦争の悲惨さと、平和の尊さを改めて知りました。世界で一番の原爆被害の国として、二度と、戦争や紛争が起きないように、多くの人達に戦争の悲惨さを伝えたいと思います。



東中 今井 瑠海

私は広島へ行き、過去と現在を見ました。たくさんの命と希望を奪った原子爆弾。今も苦しんでいる人が大勢います。二度と同じ過ちを繰り返さないよう私達は考え、行動しなければと思います。



東中 おがも 七夕

この研修により、戦争の悲惨さはもとより、原爆が一瞬でたくさんの人の命を奪ってしまった事実を改めて深く考えさせられました。私は、一人でも多くの人に平和の大切さを伝えていきたいです。



東中 関口 皆人

一瞬で十数万人の命を奪った原子爆弾の威力は想像を絶するものでした。僕はこの研修での成果を生かし、戦争や平和についてもっと学び、今どうするべきかをよく考える必要があると思いました。

戦後70年 平和教育に想う

教育長 小林和夫

町長 松本恒夫

8人の中学生を広島におくり、戦争と平和について考えてもらいました。若い感性と目で多くのものを学んでくれたと思います。

帰ってきた生徒たちを見た時、一皮むけたようにさえ感じました。引率者からは、彼らは訪問地の先々で真剣に解説に聞き入り、メモする姿が常であったと聞きました。

事前の準備に当り、私が彼らに伝えたことは、派遣先で様々なことを体験し学ぶと思うけれど、ただ見た聞いたで終わることなく、そのことを自分なりに考えて、疑問に思うことが出てくるのが大切であると伝えました。

家族や親戚の死を目の当たりにすることが少なくなった現代、戦争を知らない世代が、個々の人の死と一挙に人が多数亡くなる戦争というもののハザマを、どう自分の中で関連付けて、ものを考え行動していくのが問われていくのだと思いました。

先の大戦で広島・長崎に原爆が投下されてから70年という節目の年を迎えました。

小川町では、再び戦争の惨禍を繰り返さないよう、全町民が戦争と核の廃絶、永遠の平和を願い、昭和62年9月に「非核平和都市宣言」を決議して以来、様々な平和事業に取り組んできました。

今年も、8月及び9月に町立図書館町民ギャラリーにおいて戦争や原爆に関するパネル展を開催しました。

また、平成11年度からは毎年、広島平和記念式典に各中学校代表の中学生が参加しています。若い感性を持った中学生が、自分の目で被爆の実相を見て、感じ、学んだ事を多くの学友や町民に広く伝えてほしいと願っています。

今後とも戦争の記憶を風化させない取り組みを続け、平和の尊さを次世代に継承していきたいと思えます。